

健康で安全な生活をつくり出す力を育む園生活

—防犯教室を通して—

津市立巽ヶ丘幼稚園 校長 谷 中 ちよ
〒514-1136 三重県津市久居東鷹跡町177-5 Tel (059)255-2654

I 学校（園）の規模及び地域環境

1 学校（園）規模

学級数 4 園児数83名 教職員数 7名

2 地域環境

本園は官公庁や文教施設などが集まっている市の中心街にあり、昔は城下町として栄えた地域でもある。近年、道路整備により国道と県道がつながったため、交通量が増加し、スーパーやアパートができるなど地域の様子に変化してきている。幼稚園周辺も、宅地化が進んできているが、古くから住んでいる方も多いため家庭・地域で子どもを育てようとする意識も強く、子どもを育てる環境も整っている。

しかしながら、近年では、幼稚園周辺においても不審者による声かけ事案が発生し、子どもや園を取り巻く安全が脅かされ、憂慮すべき状況にある。そのため、日常の登降園は保護者等の同伴等による安全な方策をとっているとともに、降園後の遊びにおいても保護者等が連絡を取り合って幼児の安全確保が図られている。



[降園時の様子]

II 取組のポイント

- 1 ペープサート等視覚教材を活用する。
- 2 防犯の専門である警察官を招き、具体的な対処を学ぶ。

- 3 以上の2点をもとに、実践的な防犯教育を推進する。

III 取組の概要

1 取組の趣旨やねらい

人が生涯を通して健康で安全な生活を営もうとする基盤は、幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で、心と体を十分に働かせて生活することによって培われていくものである。したがって、幼稚園生活の中では、教師との信頼関係を基盤に、安定した情緒の下で様々な遊びや生活を通して、幼児が自ら安全な行動をとれるように指導することが大切である。

また、安全についての構えを身に付けるということは、幼児が自分で状況に応じて機敏に体を動かし、危険を回避するようになることであり、安全な方法で行動をとろうとするようになることである。そのためには、日々の生活の中で十分に体を動かして遊ぶことを楽しみ、その中で危険な場所、事物、状況などを知ったり、その時にどうしたらよいかを体験を通したりして身に付けていくことが必要である。



[戸外で身体全体を動かして遊ぶ楽しさをあじわう]

このような日々の活動を通じて行われる子どもの安全意識の高揚、危険回避能力の向上を目指した取組とともに、幼児の安全確保及び安全管理については、幼稚園や地域の実情に応じた独自の

「危機管理マニュアル」を作成し、園門の施錠、危険箇所の点検等、日常の安全管理について定めるとともに、緊急時における幼児の安全確保のための職員の体制の整備を進めてきている。



[閉門時の門扉及び施錠]

あわせて、幼児一人一人に、健康で安全な生活をつくり出す力を育むために、年間を通じて計画的に、学級全体の活動を通じた防犯教育を推進している。

まず一学期には、各学年（3・4・5歳児）で、絵本「いや！というのはどんなとき？」紙芝居「知らないおじさん」等の視覚教材を使って、いやなことを「いや」と直感できる子、そして勇氣をもって「いや」といえる子になってほしいという願いをもって読み聞かせを行った。



[絵本を使った読み聞かせ]

その後、久居警察署（現、津南警察署）の生活安全課の協力を得ながら、腹話術やペープサート等の視覚教材を活用した防犯教室を実施した。

2 取組の内容

防犯教室は、全園児（3・4・5歳児）を対象とし、以下のようなプログラムで実施した。

(1) 腹話術（ケンちゃん人形）を使って

ア 交通安全について

道路を横断するときは、横断歩道のあるところで、止まって、右をみて左をみて、もう一度

右をみて手をあげて渡る。

イ 公園で遊んでいる時に

知らない人が（警察官が不審者の声を模倣して）ケンちゃん人形に声をかける。

この腹話術人形を使った指導では、子どもたちは腹話術の話術を楽しみながらも自分がケンちゃんになりきり、「ついてったらあかん」「お父さんが知らない人にはついていたらダメって」など自分のこととして考え応答することができた。



[腹話術人形を使った指導]

(2) ペープサートを使って

ア 3つの人物像から

- ① ひげをはやして、帽子をかぶった中年のおじさん
- ② 黄色髪 of 若いお兄さん
- ③ ぽっちゃりとした中年のおばさん

3つの人物像から、「どの人が怖い人か」を問いかける。

ペープサートの表面の3つの人物像では、ほとんどの幼児が①の中年のおじさん（二ヤっと笑った漫画に出てくるようなおじさん）を怖い人であると指摘したが、ペープサートを裏返してみると、実はぽっちゃりとした優しそうなおばさんが怖い人であった。子どもたちの意識の中には、「怖い人」は①のような人だというイメージがあるようである。



[ペープサートを使った指導①]



[ペープサートを使った指導②]

(3) シミュレーションを体験する

ア 3歳児(男児)1名・不審者(警察官の方)に連れていかれる役

5歳児(女児)1名・3歳児の友だちを助ける役

上記の2名を前に出して、公園で遊んでいる場面を想定させる。

4・5歳児は、公園の状況や次の場面の説明を聞いて理解することができたが、3歳児には理解できない部分もあったので、担任が補足した。

イ 警察官の方が、「〇〇くん、お母さんに頼まれたの、お姉さんと一緒にいこうか。おいしいケーキがあるのよ」と言葉をかけて連れていこうとする。

不審者に連れていかれる役の3歳児の男児は、理解できない様子で、不審者が手をさしのべると手を出していた。そこで、その様子を見ていたほとんどの4・5歳児は、「ついてったらあかん」「〇〇ちゃん、おしえたらな」など、助ける役になっている5歳児の女児に知らせていた。

すると、あわてて、5歳児は「ついてったらあかんよ、行こう。」と3歳児の男児を引っ張っていた。



[シミュレーションの体験]

シミュレーションを体験する子どもたちよりもそれを見ている子どもたちのほうが、より理

解できたようである。また、身近な友だちが体験することを見ることで、より、自分たちのこととして考えることができた。

(4) 「五つの約束」のビデオ視聴を通して

ア あそびに行くときは、どこで、だれとあそぶか、いつまでにかえるか、いえのひとにいつからでかけます。

イ ひとりではあそびません。

ウ しらないひとにはついていきません。

エ だれかにつれていかれそうになったら「たすけて」とおおごえでたすけをよびます。

オ ともだちが、しらないひとにつれていかれそうになったら、おおごえでたすけをよびます。

この指導では、警察官の方が作成した手づくりの映像に温かさと親密感を感じたようで、真剣に視聴していた。



[ビデオ視聴後の警察官の話]

(5) 防犯教室終了後の指導

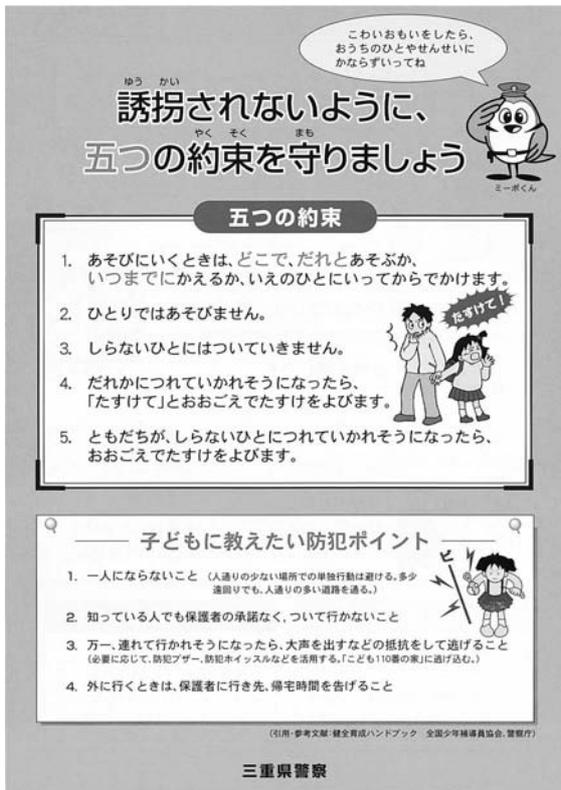
警察官2名のうち1名の方が制服を着用していたこともあってか幼児の雰囲気として、いつになく緊張した様子がうかがわれたが、腹話術の話術を楽しむ中で、自分のこととして考え、言葉や表情で応答していた。途中、ケンちゃんのアドリブ、仕草に幼児の興味が引かれ伝えたいことがほやけた部分もあったので各学年で補足をした。

ペープサートでは、子どもたちは見た目だけの判断で、ひげをはやした中年のおじさんを怖い人と感じたようであるが、実は、ぽっちゃりとした中年のおばさんが怖い人であるということを知った。このように、「この人はあぶない人」という判断は大人でも非常に難しく、犯罪者は、子どもたちに近づいてくるときは親切な「いい人のふり」をしているものであり、年齢や性別、着ている服装など、見た目には「危険な人」とはわからないこと、やさしそうに見えるから「安心な人」とはいえないことを子どもたちに指導した。

シミュレーションの体験では、前に出た子ども

よりも、それを見ている子どもたちのほうが、理解して言葉を発するなど、積極的に行動していた。子どもたちは、自分の名前を呼ばれることにより親密感を持つので、降園後名札を付けて遊ぶことは避けたほうがよいことを指導した。

「五つの約束」の視聴では、みんな真剣に視聴していた。また、保護者に対しても、三重県警察本部が作成した「誘拐されないように、五つの約束をまもりましょう」のパンフレットを配布し、家庭での指導をお願いした。



〔家庭に配付した三重県警察のパンフレット〕

3 実践の成果

最近各地で多発している子どもが犠牲となる痛ましい凶悪事件に関しては、子どもたちもテレビ等で目にする事が多く、そのためか、一人一人が真剣に参加することができた。また、防犯教室における様々な経験を通して、子どもたちが自分で自分の身を守る大切さを実感として学ぶことができたように思う。

警察官から直接に指導していただくことで、現場の危機感と事実に基づいた話をきくことができ、子どもたちなりに危機感を持つことができた。また、職員も最近の犯罪発生に関するデータ等を聞くことができ、改めて子どもの安全確保に向けた職員間の体制整備の必要性を再認識した。

また、幼児期は人格形成の上で最も重要な時期

であるといわれており、この時期の子どもたちは、心も体も著しく発達する。しかもその発達については環境からの影響が非常に大きく、特に人的環境（人とかかわる部分）は重要な要素の一つであると考えられる。子どもが人とかかわっていきこうとする基礎は、自分が保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安定感と、そこから生まれる人に対する信頼感によって作り上げられていくので、今回のような様々な体験を通じて子どもたち自身が多くの大人たちに守られていることを実感できるような取組を今後も進めていきたいと考えている。

4 課題等

今回は防犯教室を3歳児、4歳児、5歳児の合同で実施したが、この時期の子どもたちの発達段階には大きな差があるので、3歳児の子どもたちの中には、内容によって少し理解できにくいような姿もみられた。また、子どもたちの防犯に対する意識にも個人差があるので、一人一人に対するきめ細かい指導が今後も大切である。

また、地域に開かれた幼稚園づくりを推進すると同時に、安全な幼稚園にすることが重要である。いつ、誰が、どこにいるか、誰もが分かっている、その上で不審者侵入等の緊急事態に対応できるシステムを構築していくことが大切である。

本園では、平成16年から、地域における危険箇所等を把握するために、園周辺・地域のマップを作成し、折に触れ共通理解を図る機会を設けているが、今後は、保護者や地域の方を交えた危険箇所の点検、安全の確認とその情報を共有する場を計画的に設定し、実施することが大切である。

あわせて、幼稚園と警察が連携した実践的な防犯教室を今後も定期的実施するとともに、警察が到着するまでの間、教職員自らが子どもたちの安全を守ることができるよう、教職員の危機対応能力の向上を目指した研修や訓練等も計画的に実施していきたい。

防犯教室を終えて

保護者からの連絡ノートから

最近、幼い子どもが被害に遭う事件が多発しています。園でも防犯教室があったようで、子どもたちに理解してもらうのにいい機会だと思います。家庭内でも時々教えているのですが、買い物へ行った時など別の売り場へ勝手に走っていきます。だいたいお菓子売り場かおもちゃ売り場に居るのですが、つい目を離してしまう私たちです。

〇〇の父より

防犯教室の日、いただいたお手紙をもってきて「見える所にはっといて」と今、我が家の冷蔵庫にはっています。

先日の広島での殺害事件も大変な事件で保護者としては とても不安です。

外出先で、時々子どもの可愛いさに、ご年輩の方が話かけてきてくれたりしてくれるのですが、警戒してか話もしなかったり・・・なかなか複雑な心境です。デパートに買い物へ行ったりするとトイレの外で待っているのですが、最近ちょっとこわいかな・・・とったりしています。

〇〇の母より

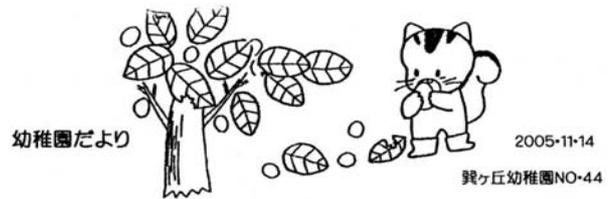
5歳児の学級全体的話し合いの中から

【子どものきもち】 人には親切にしたいと思っているもの

子どもは「人には親切にしたい」という気持ちを持って強いです。親切にするとよこばれるし、ほめられたりするので、子どもにとってはとてもやりがいのあることなのです。しかし、危険な場所では親切心から逆に、犯罪に巻き込まれています。

人通りの少ない道などで、道を聞かれた時どうしたらよいか、「よく知らないので、ほかの人に聞いてください」、「近くの交番で聞いてください」などと言うとよいことを話し合った。

保護者に配布した文書（園だよりから）



一雨ごとに秋も深まり、園庭の木々が色づき始めました。紅葉した落ち葉を集めたり、園庭で拾ったどんぐりをままごと遊びのごちそうにしたりするなど、身近な自然を遊びの中に取り入れて遊ぶ姿が見られます。先日(11月11日)の「わくわく幼稚園デー」には、保護者の方向性・現地集合・現地解散などご協力いただくことが多かった行事でしたがご参加いただきありがとうございました。多くの友だち・保護者の方と一緒に、人形劇・知っている歌を歌うなど、楽しい一日を過ごすことができたのではないのでしょうか。肌寒いお天気でしたが、園内では経験できない体験を通し、友だちと共通の経験、公共のマナーを知ることができました。ご協力ありがとうございました。

防犯教室について

奈良県内の女子児童が下校途上に連れ去られ殺害される事件など、痛ましい凶悪事が発生しています。また、不審者による声掛け事案等が連続して発生し、子どもや園を取り巻く安全が脅かされ、憂慮すべき状況にあります。

幼児の安全確保及び安全管理については、幼稚園や地域の実情に応じた「危機管理マニュアル」を作成し体制を整備していますが、万が一に備えて防犯教室を実施しています。1学期は、各学年でペープサートや絵本(いや!というのはどんなとき?)・紙芝居(しらない おじさん)を使って、いやなことを「いや」と直感できる子、そして勇気をもって「いや」といえる子になってほしいという願いをもって読み聞かせをしました。

- ・ どの子ども家族以外の人の場合は、はっきりと「いや」「いかない」と答えた。
- ・ 近くにいる知らない人に「助けて」と言って、もしその人が悪い人だったらどうするのなど、5歳児ともなると、実際に自分がその場にいたらどうするの?ということが考えられるようになってきているなど子どもたちの反応がみられた。

このような過程をふまえて、2回目は、久居警察署生活安全課の方に指導いただき防犯教室を開催します。(心身ともに発達途上であり、犯罪の被害者となりやすい子どもをその被害から守るためには、警察と地域社会や市町村等が連携して取組むことが不可欠であると思えます。)

1. 日 時	平成17年11月29日(火) 午前9時30分~11時
2. 対 象	幼稚園児 職員
3. 内 容	防犯に関する映画・講和・腹話術など

*当日の夕食時の話題にできるとおもいます。どんなことを教えていただいたか聞いてあげてください。

